

嘉
79

前畧平素不相濟也云

音の故在れり付早速奉

上の仕と後著る懸け

風物三平がりに推して

奔走逐々喉頭を痛め

相流の軌を帯ひて

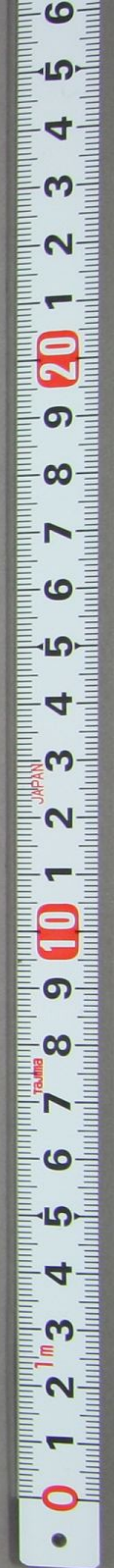
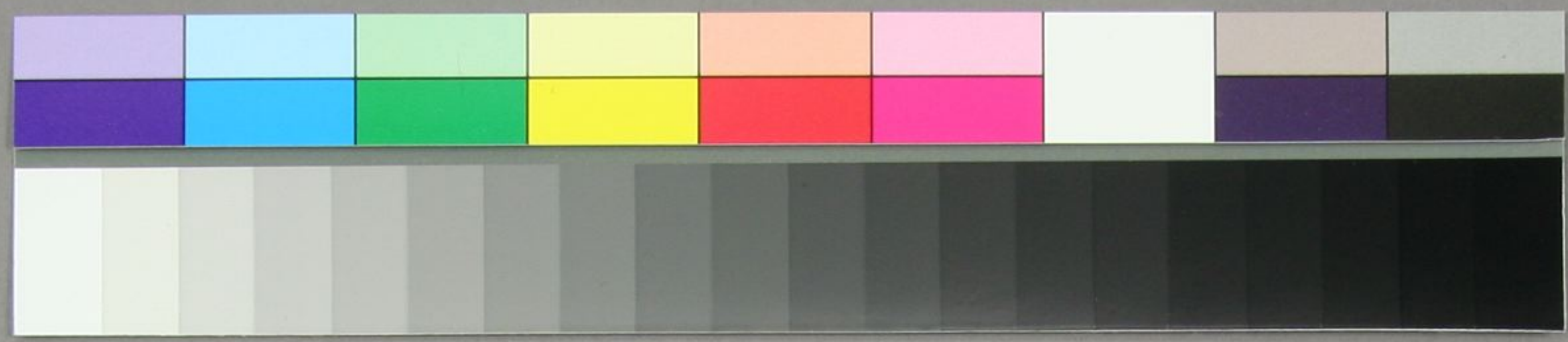
昇中より新を暖くして

敵と極めたる付河赤の

寛容認めざる者

少お法仕成ゆり

女



風物三昧に推

奔走遂に喉頭を痛

難ぬ此を常の修

昇生し此を後

敵と極めし付河赤

實容忍の交其願

少お法仕成り七有

必_く志_くつ_くろ_く中_く弱

以信晤と敵の口詮

の中止の急劇裏

と増し_く生_く限_くす

風物三昧の内証

とち_く百_く國_く家_くの_く自_く

要五成なる所

中_く算_く

奥方様_く正_く鳳

聲_く年_く才_く願_くの_く書_く不

盡情都_くの_く期_くの

國如... 之... 自... 愛... 行... 了

與方樣... 鳳

聲... 書不

盡情都... 期

青... 也... 抄

十二月五日... 筆

直林

大隈先生

尊下